

中学校社会科（歴史的分野）学習指導案

単元名 ヨコハマもののはじめ ～横浜から広まる文明開化～	内容のまとめり C 近現代の日本 (1) 近代の日本と世界 (イ) 明治維新と近代国家の形成
---	---

1 単元目標

- ・ 文明開化によって人々の生活が西洋化したことを理解し、有用な情報の整理や活用の技能を身に付ける。
- ・ 横浜が文明開化の先駆けとなった理由について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現する。
- ・ 文明開化によってもたらされた西洋文化への関心を高め、主体的に追究しようとする態度を養う。

2 単元を通して身に付けさせたい資質・能力

1854（嘉永7）年に結ばれた「日米和親条約」と、1858（安政5）年にアメリカをはじめ5か国との間で結ばれた「安政の五か国条約」によって、横浜は外国文化流入の先駆けとなった。

そこで、横浜から広まった文明開化の例として、堤磯右衛門が日本で初めて製造した石けんを取り上げ、西洋文化が横浜から広まった理由を考えさせたい。

さらに明治維新政府の近代化政策のもと、日本に流入した欧米文化について知り、人々の生活が西洋化した様子や、西洋の学問・制度・技術が広まった具体的な様子について理解させたい。

3 実践計画の概要

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治政府によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。	・工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響などに着目して、事象を相互に関連付けなどして、近代の社会の変化を多面的・多角的に考察し、表現している。	・近代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
・文明開化によって人々の生活が西洋化したことを、西洋の学問・制度・技術が流入した様子を理解している。	・横浜が文明開化の先駆けとなった理由について、堤磯右衛門が初めて製造した石けんの資料から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・文明開化によってもたらされた西洋文化への関心を高め、西洋文化が日本に与えた社会的影響と、現代の世界情勢が日本に与える影響とを比較しながら、よりよい社会の実現を視野に、主体的に追究しようとしている。

(2) 指導と評価の計画 [2時間扱い]

学習活動と内容 (時間数) 2時間	主な資料 (◆) と教師の支援 (◇) など
<p>1 横浜から広まる文明開化 本時</p> <p>堤磯右衛門に関する資料を通じ、横浜から西洋の学問・文化・制度・技術が横浜から日本各地に広まった様子を理解する。</p>	<p>◆堤磯右衛門肖像画①・② (資料1・5)</p> <p>◆堤石鹼と型 (資料2)</p> <p>◆堤石鹼の商標 (資料3)</p> <p>◆堤磯右衛門石鹼製造所 (資料4)</p> <p>◇資料1→2→3→4を順番に提示し、堤磯右衛門の功績から、横浜から広まった文明開化 (文化・学問・制度・技術) を理解させる。</p> <p>※資料5の肖像画は最後に提示する</p>
<p>2 文明開化と教育の広まり</p> <p>前時の学習をふまえ、横浜から広まった西洋文化や、明治政府による近代化政策のもと導入された学問・技術・制度について理解し、その意義を考える。</p>	<p>◆『横浜もののはじめ考 (第3版)』より「横浜もののはじめ地図」</p> <p>◇「横浜もののはじめ地図」から、西洋文化が横浜から広まった理由とその意義を考えさせる。</p>

4 本時目標

- ・ 堤磯右衛門に関するさまざまな資料から有用な情報を適切に選択し、横浜から日本各地に西洋の文化が広まった様子を理解する。

5 本時展開

主な学習活動と内容	主な資料 (◆) と教師の支援 (◇) など
<ul style="list-style-type: none"> ・ 堤磯右衛門の肖像画を提示する。 	<p>◆堤磯右衛門肖像画① (資料1)</p> <p>◇「この人物は誰かわかりますか」などと発問し、注目させる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 提示した資料をもとに、堤磯右衛門がどんなことをしたのか予想する。 	<p>◆堤石鹼と型 (資料2)</p> <p>◆堤石鹼の商標 (資料3)</p> <p>◆堤磯右衛門石鹼製造所 (資料4)</p> <p>◇ヒントとして、資料2→3→4を順番に提示し、発問する。</p>
<p>【予想される生徒の反応】</p> <p>S : ソープ、石鹼って書いてある。</p> <p>S : なぜ堤磯右衛門は、横浜で石鹼を作ったのだろう。</p>	<p>【発問例】</p> <p>T : これは何でしょう。</p> <p>T : 英語が書いてあるけど、何を意味しているのかな。</p> <p>T : どうして石鹼を作ったのかな。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 堤磯右衛門が、横浜で石鹼製造をおこなった理由を考える。 	<p>◇堤磯右衛門の石鹼製造について紹介する。</p> <p>◆堤磯右衛門肖像画 (資料5)</p> <p>◇1858 (安政5) 年「安政の五か国条約」によって神奈川 (横浜) が開港されたことを確認させる。</p>

6 博物館との連携（参考文献など）

「ヨコハマもののはじめ～横浜から広まる文明開化～」授業で使用した資料

【授業で提示する資料】

(資料1) 堤磯右衛門肖像画①



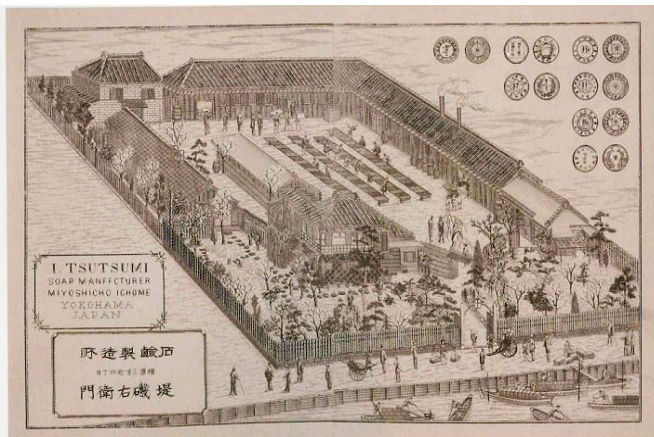
(資料2) 堤石鹼と型



(資料3) 堤石鹼の商標



(資料4) 堤磯右衛門石鹼製造所



(資料5) 堤磯右衛門肖像画②



関内の横浜開港資料館は幕末から明治に関する多くの資料が保存されている。1859（安政6）年に開港した横浜には外国人居領地もでき、当時の幕府、政府の意向もあって、西洋の文化、技術が急激に入ってきた（取り入れた）からである。ペリーの2度目の上陸地が横浜であることからペリー関連の資料も多い。

ぜひ横浜開港資料館を訪問し授業構想を練っていただきたい。以下参考になる冊子である。

・【横浜開港資料館発行の冊子】

『横浜もののはじめ考(第3版)』、館総合案内『たまくす』その他「特別展の図録」等

・【南区制70周年記念】『航空写真集』